

## 第4回摂津市文化振興計画推進審議会会議録

日 時：令和5年1月13日（金） 午後2時から

場 所：摂津市上下水道部庁舎 2階 大会議室

出席委員：仁木委員、村上委員、布川委員、阪本委員、早田委員、水本委員、山下委員、  
朝倉委員、佐々木委員、杉浦委員、長崎委員

配布資料：・次第

- ・第3期摂津市文化振興計画書（案）
- ・構成比較表
- ・意見募集（パブリックコメント）
- ・ワークショップ運営プログラム

### 1. 開会

#### ・事務局

定刻となったので、会議を開催する。本日は公私忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。只今より、第4回摂津市文化振興計画推進審議会を開催する。本日の出席委員は11名である。審議会規則第三条第二項の規定による半数を満たしているため、本日の審議会が成立することを報告する。なお、欠席議員の方からは事前に欠席のご連絡をいただいている。本日、オブザーバーとして、市民文化ホールの運営管理を担っている施設管理公社から館長ほか1名に出席いただいている。また、生活環境部長については、本日公務が重なっているため、終了次第、同席をさせていただく。それでは議事に入る前に資料の確認をさせていただく。

（資料確認）

それでは、本日会長が欠席のため、副会長にあいさつと議事進行をお願いする。

#### ・副会長

皆さま、あけましておめでとう。本日は会長が欠席であり、急遽進行を仰せつかった。年末から年始にかけてもよいニュースは飛び込んで来ず、コロナもますます増加の傾向にあるが、出席いただけたようで少し安心している。明日、明後日は共通テストがある。大学にたくさんの若者たちが集まり、勉強の成果を見せる場だが、文化や芸術や、スポーツに勤しんできた若者達の力をセンター試験共通テストで測れるものではない。しかし、ここで力を出し切った若者が将来的に文化芸術、スポーツに取り組み、充実した生活を送り、それぞれの地域に戻っていければと思っている。それでは、議事案件に入らせていただくが、その前に本日の審議会の公開、非公開について皆さまにお知らせする。本日の案件について会議を公開するものとして審議を進めさせていただく。皆さま、よろしいか。

(異議なし)

皆さまの承諾を得られたので、本日の案件は公開するものとして進めさせていただく。次第に沿って、案件1の第3期摂津市文化振興計画書(案)についてである。各案件の質疑については、事務局の説明が終わった後に確認するため、その際にご質問をお願いします。それでは事務局からの説明をお願いします。

・副会長

それでは、事務局の方でお願いします。

## 2. 議事

案件1「第3期摂津市文化振興計画書(案)について」

・事務局

案件1「第3期摂津市文化振興計画書(案)」説明。

・副会長

案件1についてご意見・ご質問等あるか。

・委員

前回の総合的目標が方針という言葉に変わったものの実際の中身は方針1、2とも変わっていない。総合的目標の名前が方針に変わった意味をもう少し説明いただきたい。

・事務局

前回、総合的目標の位置づけが分かりにくいという意見やコンセプトの下に直接総合的な目標がくるのではないかという意見も頂いた。今回の計画では基本目標と方針が並列となっており、コンセプトの実現に向けた手法として、方針を位置付ける形で名前を変えている。

・委員

基本目標に準じる形で強化していきたいという意味で方針が入っていると認識すればよいか。

・事務局

基本的にはそのように捉えていただいてよい。

・委員

また、31 ページの評価指標で目標値が下がっている部分がある。下がる理由を教えてください。

・事務局

目標の数値が下がっている箇所は、上から3つ目と4つ目になる。どちらも文化芸術、あるいはスポーツに関するボランティア活動の経験がない方の割合になっている。ボランティア活動の経験がない人を減らしていくということである。目標値について改めて説明させていただく。まず、「文化芸術活動の経験がある」と回答した市民の割合は18.8%が平均値となっている。10代とか20代前半等の年代別の数値も取っており、10代20代前半は非常に文化活動が多い一方で、20代後半になると数字が下がっている。また、30代では少し増える傾向にあり、ライフステージの変化等により、経験する活動の割合が変化すると考えている。ライフステージが変わる30代の数値が全年齢を平均した時に一番活動をしている状態ということで25%という数値を設定している。次いで、スポーツ活動の経験についても、現状では平均で48.3%となっているが、20代前半で非常に高い数値を示している。一方で、30代になると割合が減る傾向があるため、「文化芸術活動の経験がある」の目標値の考え方と同様に、一番平均的な数値を取り、55%で設定している。また、ボランティアの経験の有無について今後予定がないと答えた方の割合を下回る数値をめざした政策の展開を考え、目標を設定している。このほか、摂津の子どものスポーツ少年団構成員の割合についても、令和5年度以降に、中学校の部活動の地域移行の取り組みを進めていくことにより、地域のスポーツ少年団に入る子どもが増えると考え、目標を設定している。体育協会構成の割合については、少子高齢化が進む中で、新たに体育協会に入る方の割合が増えなければ減少の恐れがあるため、現状維持を目標としている。最後の文化連盟音楽連盟の構成の割合についても少子高齢化の中で、加入していただく市民が増えなければ割合として減るため、現状を維持できる施策展開を目標としている。

・委員

目標値と現状が一緒の数字は0.1でも増やした方がいいのではないかと。

・事務局

設定の意図としては少子高齢化の中で割合を上げていくには、今以上に活動している方を増やす必要がある。一方で、団体の方も年齢が上がる中で活動するのが厳しいため、活動を維持することが肝要と考え、現状維持としている。今回の計画の方向性としても、市民の活動をいかに後押しするのかというところがある。行政でも支援を行ないながら、今の団体の活動を絶や

さずに次の世代に引き継いでいくことを目標と考えている。5つの項目については、行政経営戦略の文化・スポーツ分野の中で定められている指標であり、令和7年度の目標値としてもともと設定されているものである。下段の7つの項目については、計画を策定するにあたり、アンケートや統計データ等を踏まえ、計画の最終年度である5年後を目標に設定している。

・委員

上の表で、すでに目標を超えている部分についての対応はあるのか。

・事務局

すでに目標を達成している部分は、今の時点で目標値を変更することはない。社会情勢を見ながら、最終的に目標を達成できる施策展開を考えている。

・委員

目標値を決めたのはいつ頃か。

・事務局

令和2年度の行政経営戦略策定時の目標値である。コロナや定年延長等で社会情勢が変わる中で、活動をしていただけない方も増えると考え、現状維持を少なくとも目指している。

・副会長

表と数字だけでは判断しにくいいため、注釈を入れることは可能か。

・事務局

表の上下で設定意図等の注釈を入れさせていただく。

・副会長

他にこれまでの説明に関して、意見や質問はあるか。

・委員

11 ページの①の三番目で音楽祭の名前が消えたのはなぜか。また、音楽に触れる機会の充実を図るとなっているが、これは行政主体でやるということでしょうか。

・事務局

以前はリトルカメリアコンクールという文言だったが、コンクール形式ではなく、純粹に音楽を楽しむ機会として検討しているため、広く全般的に音楽イベントと表現している。施設の指定管理者の事業、市民や市民団体の音楽事業をサポートすることも含めて、音楽イベントを推進する。

・委員

音楽連盟は行政主体で立ち上げた団体ではなく、市民活動の中で立ち上がった唯一の団体である。しかし、市民主体の活動では音楽イベントを生むだけで終わってしまう。行政が援助して音楽家の獲得と育成をする等の取り組みを行い、市民が身近に音楽を楽しめる機会をつくっていただけないか。市民活動では網羅できるものではなく、行政の力がないと発掘も難しいため、お願いしたい。今は引っ越されたが、摂津市にもプロではないものの、関西圏で名前を挙げているような音楽家もいた。非常にもったいないことをしたという思いがある。受け皿やネットワークをつくり、アンテナを立てていれば、摂津市には音楽以外のものもあると思う。登録制度等、色々なものがあるが、何らかの形で行政と市民団体の協働を行うことが大事である。そういう取り組みを記載していただきたい。

・事務局

少しニュアンスは変わるが、19ページの最後にミニコンサートや公演活動に対する支援について記載をしている。こちらで、包含できないかと考えている。

・副会長

他に意見や質問等はあるか。意見等がないのであれば、この計画をもってパブリックコメントを実施するというご承知いただけるか。

(異議なし)

ご承知をいただいたということで、案件2に進めさせていただく。事務局から説明をお願いする。

・事務局

案件2「その他」説明。

・委員

パブリックコメントをたくさんの方に見ていただくために、ホームページへの掲載や

LINEでの発信はできないか。また、ワークショップに外野として参加できないか。全体をどのような形で実施しているか、どんな意見が出るかを客観的に見たい。

・事務局

外側から見ただけでも大丈夫である。

一枚もので、チラシを作らせていただくので、一緒にご連絡する。また、LINEについては、担当課に相談させていただく。

・副会長

パブリックコメントを出すことが決定したが、その前に指標の注釈について確認する機会はあるか。

・事務局

指標の箇所の1ページ分のデータをメールで送らせていただく。メールの無い方には郵送でお送りする。

・副会長

また、ワークショップのプログラムは、新しい人材を積極的に巻き込むための手法を獲得するものと考えてよいか。プロの目線から、手法やアドバイス、アイデア等をそれぞれの団体の弱みを知った上で、アドバイス頂けるのか。

・事務局

外部の講師をお招きするのは難しいが、活動に参加している方や学生の方が文化やスポーツの情報の入手先をすり合わせていければと思う。全体の進行に関しては、団体の情報をどこで発信しているのか、若い世代の方々がどこで情報を集めているのかも含めて、話が展開できるようにする。

・副会長

若者を呼び込むことが大きな鍵になるということなので、大学でも呼びかけをさせていただく。過去にワークショップを実施した際の結果や雰囲気を簡単に教えて頂きたい。

・事務局

若い方が参加されると、これまでどういった形でアプローチしてよいかわからなかった団体の方と共にInstagramやTIKTOK等の新しい発信手段で何かできないかという話が生まれる。

また、現在実施しているイベントの中で、新しい取り組みが生まれることもあった。さらに、ワークショップの後の展開として、市内の活動に興味を持った学生と市内で活動している方が連絡先を交換し、そのつながりから新たに活動する人が現れることも見込まれる。

・副会長

世代を超えた人たちが集ってワークショップをできると本当に有意義なものになると感じた。他にご意見ご質問等ないか。

・委員

中学生や高校生の参加について、プログラムに加えてもよいと思う。

・事務局

周知について、チラシの設置場所を検討するとともに、文化活動を行っている中学生への声かけを検討する。

・委員

学校や生徒会へも行っているので、声かけが必要であれば言ってほしい。

・副会長

チラシに学生も大歓迎という言葉があるだけでも違ってくると思う。

他に意見がないようであれば、本日の議事はすべて終了したため、第4回目の審議会を閉会する。